

ネイチャー・テクノロジー研究会



バックキャストで考えるデータ/ロジックを導く
モノづくり推進会議 NextStage

地球環境問題が深刻化する中、30年には資源やエネルギー、水、食料など、人が生活する上で必要なモノが手に入りにくくなり、便利で快適な生活が送れない可能性があるといわれている。環境問題のテストを実施する。

●応募作成例●

例えば「エネルギーをつくる楽しみ」図」と題するライフスタイルを描くと、次のような文章となる。

「家の中でエネルギーをつくる道具が増えました。家の中を吹き抜けるそよ風のエネルギーが、

地球環境・エネルギー問題…

4月5日まで作品募集



コンテスト応募作成例 (イラスト)

1. 手作りチョコを贈る習慣は続いています。手作りエネルギーが、やはり始めました。お兄さんの部屋では、オシャレなマイクロ風力発電機と一緒に高価なエネルギーを度々もらい、携帯電話やパソコンに必要な電気に困ったことはいくつもあります。うわさが広まりエネルギーを提供するサービス企業が登場し始めました。

モノづくり日本会議 活動予定

- 一日中小企業庁 in 滋賀 (常盤文よる特別講演会)＝2月5日に大津市のピアザ浜海で開催
- ものづくりマッチングツアー in 三重＝2月12～13日三重県四日市市ほかで開催
- 100年経営の会 地域フォーラム @三重 (共催)＝2月14日三重県四日市市の四日市ドームで開催
- モノづくり体感スタジアム＝3月9、10日横浜市港北区の慶應義塾大学日吉キャンパスで開催

※詳細はモノづくり日本会議ホームページ (cho-monodzukuri.jp) に順次掲載

「2030年の『心豊かなライフスタイル』未来のあたりまえを考える」コンテスト

モノづくり日本会議のネイチャー・テクノロジー研究会は「2030年の『心豊かなライフスタイル』未来のあたりまえを考える」コンテストを実施する。地球環境やエネルギー問題を考えながら、ドキドキ・ワクワクする未来のライフスタイルを描いてもらう。審査委員長は同研究会コーディネーターを務める石田秀輝東北大学大学院教授。4月5日まで作品を募集する。

モノづくり日本会議のネイチャー・テクノロジー研究会は「2030年の『心豊かなライフスタイル』未来のあたりまえを考える」コンテストを実施する。地球環境やエネルギー問題を考えながら、ドキドキ・ワクワクする未来のライフスタイルを描いてもらう。審査委員長は同研究会コーディネーターを務める石田秀輝東北大学大学院教授。4月5日まで作品を募集する。

●応募要領●

●応募要領●

ものづくりにマッチングツアー

三重で来月12～13日開催

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、2月12日から一泊二日で「ものづくりマッチングツアー in 三重」を開催する。13、14の両日、三重県四日市市で開かれる「リーディング産業展2013」の併催事業で、三重県内の企業を全国からの参加企業が訪問してモノづくり現場を見学するほか、域外企業との連携をいかに進めるべきか議論する。

ーメインの大型プレス機械を中心に、現在の部門と旧福井機械が統合をどうしていますか。し、現在のエイチアンドエフとなったが、ここ数年海外比率が高まっており、売上高で言うと約8

宗田 世一氏

エイチアンドエフ社長 (幹事会員)

割が海外。この傾向は変わらないだろう。新興国、特にタイでの売り上げが伸びている。「タイでの当社のマーケットシェアが上っている。2011年の水害後に、日系自動車メーカーの設備の復旧を迅速にお手伝いした。約4カ月間、延べ4000人を投じて、水につかった機械の洗浄、乾燥、電気部品

顧客ニーズにできる力をつけるには、新しいことに取り組む力と、合理化の両方が大切」と宗田さん

顧客ニーズ対応力を磨く

「一方で、モノづくりにはやはり勘所というか、熟練技能者が必要場面がある。若手とベテランがうまくミックスさ

モノづくりの勘所 現場実践で鍛える

れた職場を目指している。若手を教育していくうえで重要なのは「実践」。当社は「こ福井の地で開発から生産まで同じ敷地内で行っている。『現場が近い』ということは実は大切で、開発の若手にもパソコンの中で考えるだけでなく、現場でモノを見て判断できる力をつけられるよう教育している。ベテランの第六感という感性からも学ぶべきことは多いはずだ」



大型機械・ロボで生産性向上



ば、東日本大震災では深刻な影響は受けなかった。それよりもリーマン・ショックの時に厳しかった。仕事がなく当社の下請け各社も皆大変だった。なんとか知恵を絞って全員の生き残り」

「外部環境」という意味では関税や為替レートの面から、日本のモノづくり各社が欧米や韓国などの競争相手と勝負する際にハンディをつけら

モノづくりの勘所

「現場が近い」ということは実は大切で、開発の若手にもパソコンの中で考えるだけでなく、現場でモノを見て判断できる力をつけられるよう教育している。ベテランの第六感という感性からも学ぶべきことは多いはずだ」

新たな日の出

モノづくりの進むべき道

モノづくり日本会議

MONODZUKURI

“超”モノづくり

モノづくり企業の英知を結集し、
将来にわたり発展できる盤石な産業基盤を築き上げる。
広域企業ネットワークが触媒となり、
人口・環境・資源の制約を乗り越え、
「超”モノづくり」を推進する。

モノづくり日本会議

ーモノづくり推進会議 NextStageー



モノづくり日本会議

モノづくり推進会議 NextStage

事務局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (日刊工業新聞社内) TEL 03-5644-7608 FAX 03-5644-7209 www.cho-monodzukuri.jp